

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価計画

学校名	佐賀市立三瀬中学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力の向上の成果指標に対する取り組みでは、中学部独自の校内研究会を実施して、各教科の取り組みを確認しつつ、優れた取り組みは共有する。 コロナ禍であったために、これまでの取り組みや学校行事の見直しをするきっかけとなった。「生徒のために」考える事ができて、効果的な取り組みができるようになり、そのことが業務改善にもつながった。今後も見直ししていきたい。 家庭学習の充実を図るために、課題の系統を考えて、学期単位で考えて実践をすすめていきたい。さらに充実するように各教科の課題の中身についても考えていきたい。
2 学校教育目標	ふるさとを愛し、自信と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の取り組み ② 学力の向上と自己教育力の育成 ③ 一人ひとりを大切に教育の推進 ④ 豊かな心・健やかな体を育む教育の推進 ⑤ 国際化・情報化に対応した教育の推進 ⑥ 教師の資質向上と働き方改革

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
					●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	・学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師70%以上にする。	・学期ごとに見直しを行い、各教科担当の成果指標を達成する。	・それぞれ成果指標を立てて実践に取り組んでいる。生徒のゴールの姿を念頭に、単元構想をし、PDCAサイクルに基づいて授業を展開している。	A
●学力の向上	○家庭学習の定着と充実 ○考え・伝え合う学びの場の充実	・定期テスト前の家庭学習時間を3年生3時間以上、1・2年生2時間以上の割合を80%以上にする。 ・課題の提出率を90%以上し、家庭学習の充実を図る。 ・基礎学力の定着(県学力調査、おおむね達成基準到達70%以上) ・授業では、考え、伝え合う言語活動を行うことができたと言え、生徒を80%以上にする。	・定期テスト前の「学年+1時間」の家庭学習を目標設定と計画的な家庭学習をさせ、充実させる。 ・曜日ごとの教科担当による自主学習ノートの取り組みの工夫と助言を行う。 ・三瀬校授業スタイルの共有と実施、学び合いを取り入れた授業づくりを行う。 ・授業と場の工夫をし、思考を働かせる活動や対話的な活動を確保する。	・テスト前は概ね「学年+1時間」の学習時間を確保して、計画的に学習することができている。しかし、日頃の家庭学習においては、学習内容の充実ができていないものもある。家庭での時間の使い方については今後も指導を続けていく必要がある。 ・「授業では、考え、伝え合う言語活動ができている」と80%以上が回答している。今後、さらに思考を働かせ、表現する活動に取り組ませる。	B	A	・テスト前は概ね「学年+1時間」の学習時間を確保して、計画的に学習することができている。しかし、日頃の家庭学習においては、学習内容の充実ができていないものもある。家庭での時間の使い方については今後も指導を続けていく必要がある。 ・「授業では、考え、伝え合う言語活動ができている」と80%以上が回答している。今後、さらに思考を働かせ、表現する活動に取り組ませる。	A	・十分達成できている。家庭との連携を密にし、継続的にコミュニケーションをとることが重要。 ・テスト前の学習調査票など、毎日のチェックやアドバイスなど細かに対応されている。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・生徒の実態や地域の課題に応じた指導内容を工夫し、道徳の時間を充実させた上で「道徳や学級活動は充実している」の設問に肯定的な回答をする生徒を90%以上にする。	・教科書外の地域教材や自作資料を、教科書の内容と関連させながら道徳の授業に積極的に取り入れる。 ・ふれあい活動やボランティア活動を各学期に設定する。その内容や振り返りを通信等で発信し、保護者と共有する。	・1学期には実施できなかったが、教科書教材と地域教材との関連授業を2学期に実施予定である。 ・校舎・備品が教室に向き、生徒の実態に応じた授業が行われている。	A	A	・「道徳や学級活動は充実している」の設問に肯定的な回答をする生徒は85%であった。各学年でそれぞれ実態に合わせて指導内容を工夫して、地域教材や自作資料を用いた授業を今後さらに充実させていく必要がある。	A	・地域との連携を深めた内容に力を入れてもらいたい。 ・道徳の公開授業「ふれあい道徳」が行われ、保護者にも取組がわかりやすかった。	
●心の教育	●いじめの未然防止、早期発見、早期対応体制の充実	・生徒一人一人が持つ問題や悩みを気軽に相談できる教育相談環境を構築する。特に、アンケートの充実を図る。 ・学校は楽しいと言え、生徒を90%以上にする。	・定期教育相談を年2回実施する。気になる生徒については全職員で共有し、必要に応じてSC等に繋げる。 ・毎月生活アンケートを実施し、生徒が抱える問題や悩みを早期に発見・対応する。 ・SWやSC等との連携を強化し、ケース会議を行いながら、職員の共通理解を図る。	・気軽に教師に相談していると答える生徒は8割程度で、昨年並みである。生徒とのコミュニケーションをとることで信頼関係を構築し、個に応じた支援を行っている。 ・入学してよかったと回答する生徒は86%だった。	A	B	・学校は楽しいと言え、生徒は7割であった。 ・気軽に教師に相談していると答える生徒は1割目より6%上回っているが、全く当てはまらないと回答した生徒がいる。「学校は、生活アンケートや教育相談アンケートを通して、生徒が抱える問題や悩みを早期に発見・解決していると思いますか。」に否定的な意見が11%あり、さらなる取り組みの充実や改善が求められる。	A	・十分達成できている。否定的な生徒をどうフォローしていくのが重要である。いじめに対しては未然防止の対応を重視し、今後も取り組んでほしい。	
●心の教育	○人権・同和教育、特別支援教育の充実	人権・同和教育を正しく理解し、いじめ、差別や偏見のない社会を築く資質を育てる。 ・人権・同和教育や特別支援教育の大切さに対し、理解ができたと同答した生徒80%以上。 ・特別支援教育の充実を図る取り組みについて肯定的な回答をした教員の割合を90%以上にする。	・毎月1回人権集会を開き、教師による講話を実施する。 ・教師の高い人権意識により、生徒指導や各学級での指導にあたる。 ・社会科担当と学級担任の連携を図り、賤称語や差別について正しく理解させる。 ・特別支援教育校内研修会を年間5回開催する。	・1月1回の人権集会の実施し、すべての教師からの話を聞くことができている。また、教師の話を聞いて考えたことや今後生かしていきたいことなどを用紙にまとめることができた。社会科との連携や学級活動や道徳の時間にさらに計画的に人権教育を行っている。 ・3回の特別支援教育校内研修を行った。日頃の生徒への指導・支援、保護者・他機関との連携に前向きに取り組んでいるとの回答がすべての項目において90%を超えていた。本校課題を整理して、今後の研修にも取り組みたい。	A	A	・1月1回の人権集会を欠かさず実施することができた。また、「人権集会はあんなに人権意識を高めているか」という質問に対して、生徒の96%が肯定的な意見だった。 ・特別支援教育校内研修会を年間5回実施した。講師を招聘しての研修では、授業のユニバーサルデザインについて学び、教師全員が理解を深めることができた。	A	・1月1回、輪番制による先生方の話がすばらしい。経験に基づいた講話のため、生徒の感想から興味・関心をもっていることがわかる。 ・個に応じた指導である特別支援教育において、教師の意識が高く、重要視している姿がうかがえた。	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	・「朝食を食べて登校する生徒」を90%以上、歯科・眼科の受診率を50%以上にする。 ・「健康に食事は大切である」と考える生徒を80%以上にする。 ・児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。 ・ハザードマップを提示し、講師を招いた避難訓練を実施し、安全を確保するための判断力を身に付けさせる。 ・ハザードマップの提示や講師を招いた避難訓練を実施し、安全を確保するための判断力を育てる。	・望ましい食事の仕方や生活習慣を、家庭と連携して身に付けさせる。 ・「朝食を食べて登校するように指導する。歯科や眼科への受診依頼に担任も関わる。 ・登下校では、交通マナーを守り、蛍光たすきを身に付けさせる。 ・ハザードマップの提示や講師を招いた避難訓練を実施し、安全を確保するための判断力を育てる。	・給食の片づけやマナー、朝食の大切さなどについて、生徒会活動を通して生徒に周知している。 ・登下校のマナーをしっかりと守っており、災害に応じた避難訓練に担任も関わる。 ・ハザードマップを確認するとともに、消防隊より話を聞くことができた。	A	A	・委員会活動を通して、生徒が主体的に給食の片づけやマナー、朝食の大切さなどについて考えることができていた。学校と連携して望ましい食事の仕方や生活習慣を身につけようとしている保護者が1割目より下がっており、家庭との連携方法の検討が必要である。 ・生徒は、交通安全をしっかり守って登下校している。避難訓練に参加し、安全確保の判断力が身についたと回答した生徒は96%だった。	A	・給食の片づけやマナー、朝食の大切さなどの食育について、「給食だより」等を中心に、保護者に向けての啓発がきちんと行われている。 ・安全対策については、「地震・火災」「不審者」「土砂災害」と標識に応じた避難訓練が確実に行われている。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	・教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。 ・ひと月当たりの時間外在校時間が45時間を超える割合を10%以下にする。	・ノー部活デー、定時退勤日を設定(毎週水曜日)し運行する。 ・業務データの一元化による校務の効率化。 ・個人の業務内容の見直しと自己マネジメント力の向上。	・ノー部活デー、定時退勤日を設定(毎週水曜日)したが、運行率85%であった。 ・業務データにおいては、校務サーバーで一括管理し、校務・個人フォルダの有効活用により業務を効率的に進められた。 ・ひと月当たりの時間外在校時間が45時間を超える割合が73%であった。	B	A	・中間評価以降のノー部活デー、定時退勤日の運行率は89%、ひと月当たりの時間外在校時間が45時間を超える割合は94%に上昇した。に上昇した。 ・業務においては、ファイルの管理をPCを使い、効率的に進めることができた。	A	・ノー部活デー、定時退勤日の実施率は目標を達成できている。先生方の疲労が生徒の教育活動に影響することを考えられて対応してほしい。	

(2)本年度重点的に取り組むこと	○効率的な業務の遂行	・全教職員が業務改善の目標を立てる。 ・働き方についての円・人事評価表に業務改善の目標を設定し、達成させる。	・全教職員が業務改善の目標を立て実践することはできた。	・全教職員が業務改善の目標を立て実践することはできている。職員室も動きやすい環境になるように徐々に変えていく。
------------------	------------	---	-----------------------------	---

評価項目	重点取組	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見直し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
					◎志を高める教育	○ふるさと三瀬への郷土愛の育成 ○環境教育への関心の向上	・三瀬村の自然・人・ことに着目して体験活動を通して再発見させ、郷土愛を高める。(アンケートで三瀬を誇りに思うと答える生徒を80%以上にする) ・環境教育について意識を高め、環境ISOに全校で取り組む。(アンケートで環境ISOを行なったと答える生徒を90%以上にする) ・地域の交流事業等に積極的に関わり、生徒の社会的視野を広げさせる。	・行事などで自分の係の目標や個人目標を立てさせ、その後、振り返りをさせ、評価をすることで、自己肯定感を高める。 ・三瀬の自然や生活、社会とかわる体験活動について、計画・体験・まとめ・振り返りの活動を行い、生徒の主体性を育てる。 ・生徒会を中心に学期ごとに環境教育について再確認し、年度末に環境ISOの実践報告を行う。 ・地域の交流事業等に積極的に関わり、生徒の社会的視野を広げさせる。	・行事ごとに、委員が中心となって活動をしている。行事終了後には振り返り用紙を校内に掲示している。生徒会活動で学校が良かったと答えた生徒は96%で活動の効果を実感していることが分かった。このことから自己肯定感が高まっていると考える。 ・総合的な学習で、「ふるさと三瀬」を系統立てて活動を行っている。3学年を通して学習することができた。三瀬の一員として地域に貢献したいという意識が高まってきていると考える。 ・環境ISOでは、持ち物に名前を書く以外の項目では90%以上の達成を継続している。	A
○小中一貫教育	○小中合同行事の充実	・小中合同の行事、体験活動が「自分のためになっている」という生徒の割合を90%以上にする。 ・小中の学びの過程、学習の規律を構築する。	・行事、体験活動を主体的に企画・運営を行う場と機会を設定する。 ・校内研修を通して、小中連携の視点を設定し、振り返りのあり方や指導と評価についてを話し合う。9年間を見通した学習面および生活面の連携方法として、表に示し、徹底を図る。	・新型コロナウイルス感染症予防のため、体育大会や文化発表会は半日開催となったがプログラムを精選し、充実した行事となった。体験活動の羊歯苗植えや羊歯掘りなどは縮小して行った。行事の小中連携は少なくなりましたが、1回の乗り入れ授業を行っている。研究授業では、「振り返り」について授業研究会を通して、よりよいものにしていく。	A	B	・「小中合同の行事に積極的に参加できたや体験活動では計画・事前学習・体験・まとめ活動を充実させた」という生徒の割合は90%以上であった。 ・校内研修等で、9年間を見通した学習面および生活面の連携方法を考えた。ではやあやあは88.9%に対し、よくあはまるという教員は11.1%であった。今後小中の学びの過程、学習規律の継続性について検討し共通理解していく必要がある。	A	・併設型の小中一貫校ではあるが、9年間を見通した学習面および生活面の連携方法をさらに発展してほしい。コロナ禍ではあったが、その中で学びを止めることなくできることに取り組んでもらい、ありがたかった。	

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ・コロナが収束の気配があるが、これまで対応として削減や短縮してきた様々な行事を、例年通りに戻すことを考えた場合、自粛期間が長すぎたためスムーズに対応できるかが問題である。行事を通して生徒が成長していくことを重要視し、取り組んでいきたい。 ・小さな学校ならではの長所である「個に対応した学習指導」にさらに磨きをかけ、個人PCの利活用や持ち帰りの日常化から、効率的に理解を深めることができる学力向上を目指したい。 ・小中一貫教育校として、小学校との連絡・研修を密にし、9年間を見通した学習面および生活面の連携方法を表に示し、徹底を図っていく。
----------------	---